

20080

Amplatzer Vascular Plug-II を使用し内腸骨動脈塞栓術を施行した症例検討について

**【背景】**腹部大動脈瘤に対する治療は外科的摘出術が一般的であった。

当院では小切開による手術を行い、最近ではステントグラフトを用いることで開腹を必要とせず、低侵襲かつ安全に行われている。

**【目的】**ステントグラフト内挿術において、総腸骨動脈の短い症例、総腸骨動脈瘤や内腸骨動脈瘤を合併する例では、内腸骨動脈のコイル塞栓が必要となる。

そこで今回、当院において Amplatzer Vascular Plug-II を用いた内腸骨動脈塞栓術を施行したため報告する。

**【考察・結語】**内腸骨動脈はエンドリークの原因となるだけでなく、脊髄や腸管、殿筋や骨盤などに影響を及ぼすため適切な塞栓が必要である。

Amplatzer Vascular Plug-II による内腸骨動脈塞栓術の治療効果は良好であり、特に医療費における効果は今後期待できると考えられた。耀